

MACF礼拝説教要旨

2022年2月6日

「従うことと福音」

【ルカによる福音書】

5:27 その後、イエスは出て行って、レビという徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。

5:28 彼は何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った。

5:29 そして、自分の家でイエスのために盛大な宴会を催した。そこには徴税人やほかの人々が大勢いて、一緒に席に着いていた。

5:30 ファリサイ派の人々やその派の律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒に飲んだり食べたりするのか。」

5:31 イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。

5:32 わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」

+++++

レビという名前の徴税人となっていますが、マタイによる福音書ではマタイのことだとわかります。同じ内容の記事がマタイによる福音書9章に書かれています。

マタイという名前の意味は「神の賜物（たまもの）」。

本名がレビでその意味は「結ぶ」で12部族のひとつ「レビ族」のレビにちなんだ名前です。ガリラヤ地方のカファルナウム出身の人で、弟子になる前の職業は徴税人。

当時の社会における徴税人の地位は低く、というのも敵国で支配者でもあるローマ帝国に税を納めるために徴収することが仕事であり、また、その集め方も強引で、かなり無謀な計算で額を決めていたとも言われています。ですから、人々は彼らのことを悪様にいいました。

まさに嫌われ者の代名詞。罪人の頭、人でなし、虫けら、民族の裏切り者、売国奴、ローマの犬などなど。

レビがイエス様から呼び出された時、おそらく、それは彼にとっては夢の

ような出来事であり、にわかには信じられなかったことだったと思います。

社会的な軽蔑の元に置かれていた彼にとって、あの人々を癒し、神の国の福音を語る方の弟子となるなど夢にも思えなかったのではないかと思います。

イエス様の弟子はほとんど、イエス様が選び出し、イエス様の方から声をかけられて人たちです。そうでなくても従った人たちはいると思います。でも、弟子たちの中で一番信頼されていたのはイエス様から呼び出されて従っている人たちでした。

そして、イエス様が「私に従ってきなさい」と語られた時、イエス様は「頑張っついで来い」と言ったのではなく「私に従って来るなら、私があなたの僕となり、私があるあなたを支え、私があるあなたを守りますよ」という意図を持っていたと言われています。

だからこそ、漁師たちでも徴税人でも「従う決意」を固めることができたのだと思います。

まさに、従うことによる「神からの福音と祝福」があることを彼らは心に深く認識したのです。

喜びのあまりレビは大晩餐会を開催します。

自分の仲間たちを集め、これからの新しい人生の門出を祝うための祝宴を開くのです。

当然のように、そこには社会的に評判のあまりよくない人たち、いわゆる罪人と呼ばれている人たちが集まりました。

イエス様も他の弟子たちもそこにいました。イエス様は主賓でした。

これが宗教家たちには面白くない出来事だったのです。

「罪人たちと一緒に飲み食いするなど言語道断」と彼らは考えました。

それを彼らはイエス様の弟子たちに伝えます。

5:30 ファリサイ派の人々やその派の律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒に飲んだり食べたりするのか。」

すると、イエス様ご自身がお答えになります。おそらく弟子たちにはなぜなのか理解できず、イエス様に質問を届けたのでしょう。

イエス様の答えは明確でした。

5:31 イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではな

く病人である。

5:32 わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」

議論はまだまだ続くのですが、今日はこの部分だけをお話ししておきます。

このイエス様の言葉には神の心が表明されています。神の心は「病人、罪人、今はそれができていないけれど、できることであれば人生をもういちどやり直したい、人生を神とともにすっきり生きたい、人に愛され、受け入れられるような人生を送りたい」と思っている人のほうを向いており、それらの人たちを支え、生かし、祝福するためにこそ救い主は来ているのだということなのです。

表面的に「自分はダメな人間、自分は罪人」と決めつけて不貞腐れている人いませんか？その不貞腐れている部分が神の目からみたら病人の印なのかもしれません。

イエス様のこの言葉を聞いて、「あ、これは自分のこと、イエス様が来てくれたのは病人であり罪人である私のためだ」と気づくことができた人はなんと幸いな人でしょう。

こういう言葉を人ごととして読んでしまうと、福音は全く心に入りません。

この物語のどこの部分に自分を置いて読んでいますか？

ファリサイ派の人たちの立場？弟子たちの立場？レビの立場？それともイエス様の立場？

クリスチャンの多くは、聖書を読む時案外無意識にイエス様の立場に身を置いて読む習慣をつけてしまっています。

ですから、自分は対象外。そして他人は全員病人で罪人。イエス様はそれらの人のために来た。でも、自分は、それを理解しているからそれで十分、という感じです。

これは深刻な間違いです。

あなたがキリストの「患者」のひとり。わたしこそ「キリストによる治療が必要な人間」と心から感じ取ることができた時、恵みを味わうことになります。

その喜びは声をかけられた徴税人レビの感動と同じです。

* * *

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/ywvBWAyfwY0>